

8/26 ニューヨーク法廷報告 日本から十名越える参加団が訪問

ICTA判決を世界に広める。

国連各国代表部に判決を配布し、法廷で証言

(高瀬晴久)

今回開催されたニューヨーク法廷

は、既に全世界で開催されているイラク世界法廷やブラッセル法廷、イラク国際戦犯民衆法廷などと連携しながら、IACがイラク戦犯法廷として開催した独立法廷です。私達（ICTI及びICTA）はIACからの招請を受け、合同参加団として法廷に参加しました。

法廷の前日の八月二十五日、私たちは、「アフガニスタン国際戦犯民衆法廷」判決を持って各国の国連代表部を訪問する1日行動に取り組みました。七〇数カ国をリストアップし、三チームに別れ、地図を頼りに各国代表部が入居するビルを探し当て、飛び込みで面会を申し入れたのです。対応は様々です。「このビルにはカナダ代表部もあるぞ。メッセージは届けなくていいの？」など、好意的な反応を得、予定を超える代表部に判決を届けることが出来たチームがある一方、「アポイントがなければだ

めだ。」の対応の果てに「不信人物と思われたためか、ビルから追い出されてしまった」チームもありました。一番好調なチームは、アフガニスタンやイラク代表部の方と会って話をし、記念写真を撮るなど、「ブッシュ有罪」判決を持って国連ビル周辺を席卷したICTA・ICTI合同訪問団の一日となりました。



ニューヨーク法廷聴聞会でICTIの報告

八月二十六日のイラク戦犯法廷には全員で参加しました。私達は、メインホール入り口前にブースを構え、ここを拠点に別会場でビデオ・ブッシュを裁く1・2の上映会を行い、各チームは聴聞会に参加し、証言を行ったのです。○会場で開催された聴聞会のうち、

「各世界法廷からの報告」聴聞会では、前田朗さんと稲森弁護士がICTA及びICTI法廷について証言し、「東アジアにおける戦争と侵略の計画及びその準備」聴聞会では、私（高瀬）が「日米安保と日本におけるイラク反戦運動の現状」を証言し、「イラク市民と経済インフラへの攻撃」聴聞会では、安原桂子さんが「占領下における女性に対する暴力」を証言し、各々好評を博すことが出来ました。午後六時三〇分からは、大ホールで、いよいよ法廷です。冒頭、ブッシュ大統領、チェイニー副大

統領他が国連憲章、国際法、合衆国憲法等に違反しているとして、平和に対する罪など一九の罪で起訴され、以降三〇名（前田朗さん、稲森弁護士も）が次から次へと証言。最後にラムゼー・クラーク氏が締めめの演説を行いました。フイナールはサラ・フラウンダース氏による、壇上からの「ギルティ」コールに、法廷傍聴者がレッド・カードを掲げ、「ギルティ」「ギルティ」のコールで応え、有罪を確定しました。法廷というよりは、デモ直前の「決起集会」のような法廷でした。参加者は全体で四〇〇名程度。日本からの一〇名を超える参加は海外参加団中最大です。持ち込んだ資料は、三〇〇部のICTA判決始め、全て配布しました。会場スタッフの間でも、「法廷で日本が2人も証言するのは始めて」「素晴らしい」の声

も聞かれ、世界の反戦運動と連帯し、ICTA・ICTI運動を世界に広げたニューヨーク行動でした。

抵抗運動を築くための ニューヨーク法廷に参加して

(安原桂子)

「AOS www.peopleofujebush.org でサラ・フラウンダースとジョン・カタリノットは、ニューヨークのイラク法廷についてこう語っている。

「イラクの人々には、自国を守り、かつ不法な米国の侵入と植民地占領に抵抗する権利がある。過去の国連総会決議文が、植民地支配と外国従属からの解放を求める民族の努力は武装闘争を含めてすべて合法であると宣言してきた。しかし、九一年の湾岸戦争で共犯者となり、経済制裁でイラク産業を破壊し、〇三年に米国占領軍にイラク資源を引き渡した国連は、平和と正義の失格者だ。それに代わる独立した民衆法廷が必要である。米兵は、不法な命令に抵抗する権利を持つ。この法廷で、勇敢で率直な米兵とその家族は証言する。フィリピン、インド、あるいは韓国に米軍基地に抵抗する人たちがいる。イラクの人々の強力な抵抗は、米軍によって脅かされた民衆に新しい力を与えた。世界各国の米軍基地反対運動のリーダーたちが証言する。」

午後三時から五時半まで、参加者は九つのワークシヨップに分かれて参加しました。ワークシヨップは六時には終了し、参加者は講堂に集まり、他のワークシヨップからの報告を聞きました。夜九時にラムジー・クラークによる最終弁論があり、参加者は有罪か無罪かの判断を示す赤紙と白紙を提示することを求められ、全員、一斉に赤紙を振って有罪判決を下しました。

スピーカーも聴衆も、必ずしも有名でも、社会的に地位ある人たちがかりではなかったけれど、それぞれに生き生きとした魅力ある人たちでした。

稲森さんの発言は原稿を出した時点でAの担当者から、very good という評価を受けていましたが、当日の反応も良くて、年配のアメリカ人女性に話しかけられたらしいです。高瀬さんの発言も好評で、聴衆から質問がいくつも出ていました。私は高瀬さんの後見人をするため、自分のスピーチを早口に読み上げると教室を脱出しましたので、質問が出たかどうかは知りませんが、拍手は予想外に大きかったと感じています。昼食時に、カタリノット夫人が、「とても素晴らしい発表をしてくださいありがとうございます。イラクの女性たちは、アメリカ人の女性たちより、ずっと早くから同権運動を始め、ちゃんと成果をあげてきたのね。アメリカではまだ憲法上の男女同権はまだ確立していないんですものね。」とやさしい言葉をかけてくださいました。